

様式第 9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
鹿角地域	鹿角市、小坂町	23年4月1日～28年3月31日	5ヶ年

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※1) (平成21年度)	目標 (割合※1) (平成28年度) A	実績 (割合※1) (平成28年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量	6,061t	4,796t (-20.9%)	5,879t (-3.0%)	122.6%
	1事業所当たりの排出量	1.98t	1.73t (-12.6%)	2.05t (3.5%)	118.5%
	生活系 総排出量	10,795t	9,379t (-13.1%)	9,845t (-8.8%)	105.0%
	1人当たりの排出量	217kg/人	202kg/人 (-6.9%)	234kg/人 (7.8%)	115.8%
合 計	事業系生活系総排出量合計	16,856t	14,175t (-15.9%)	15,724t (-6.7%)	110.9%
再生利用量	直接資源化量	1,752t (10.4%)	1,762t (12.4%)	1,378t (8.8%)	78.2%
	総資源化量	3,490t (20.5%)	3,311t (23.0%)	2,944t (18.7%)	88.9%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	— MWh	— MWh	MWh	
減量化量	中間処理による減量化量	11,891t (70.5%)	9,892t (69.8%)	11,355t (72.2%)	114.8%
最終処分量	埋立最終処分量	1,532t (9.1%)	1,092t (7.7%)	1,349t (8.6%)	123.5%

※1 排出量は現状に対する割合、その他の指標は排出量に対する割合

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成 年度)	目 標 (平成 年度) A	実 績 (平成 年度) B	実績B /目標A
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	粗大ごみの有料化	鹿角市 小坂町	鹿角地域から排出される粗大ごみの有料化を調査、検討し発生抑制に資する	H24 ~ H27	鹿角地域から排出される粗大ごみの有料化を調査、検討した市町による解体分別の指導により平成 26 年度を境に粗大ごみは、減少傾向にある 今後も引き続き検討していく
	12	環境リーダー育成講座	鹿角市	鹿角市における環境保全活動の団体からのリーダーとなる人材の育成	H23 ~ H27	毎年、6 回エコライフ実践講座を開催し、環境負荷の低減など循環型社会形成に向けた具体的行動を学び、環境に対する意識を高めた 各団体のエコリーダー 22 人を認定し、鹿角市ではエコリーダーが講座を実施
	13	小学、中学および高校生、市民団体視察研修	鹿角市 小坂町	鹿角地域の小学、中学、高校生に対し、ごみの分別や資源化の大切さを普及啓発する	H23 ~ H27	小学生など、年間 200 人が施設の見学及び学習をしている 計画期間中の施設見学者は圏域民 1,000 人
	14	3 R 推進活動	鹿角市 小坂町	分別区分の普及啓発・資源回収、マイバック運動等を展開し推進していく	H23 ~ H27	マイバッグ持参啓発ポスターを作成し、全戸配布 マイバッグキャンペーンを実施し、ごみの削減を周知 ごみ分別辞典を作成し HP で周知 ごみの出し方・リサイクル正しい分別手引き、冊子を作成し全戸配布

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
処理体制の構築、変更に関するもの	21	処理区分の検討	鹿角市 小坂町	リサイクル率アップを図るため処理区分の細分化を検討していく	H24～H27	細分化については引き続き検討していく
	22	事業系一般廃棄物の排出事業者への減量化等の推進	鹿角市 小坂町	事業系一般廃棄物排出業者の排出量を調査し一般廃棄物の減量・処理に努めるよう推進していく	H24～H27	事業所のごみ排出量を、収集業者に依頼して調査し、減量・処理に努めるよう指導を実施
処理施設の整備に関するもの	1	鹿角地域溶融スラグストックヤード施設整備事業	鹿角広域行政組合	溶融スラグのストックヤード整備	H24～H25	H25.12月完了
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	1の計画支援	鹿角広域行政組合	旧ごみ処理場解体計画業務及び溶融スラグストックヤード建設実施設計業務	H23～H24	H25.3月完了
その他	41	再生利用品の需要拡大事業	鹿角広域行政組合	溶融スラグの利用促進	H23～H27	圏域内の工事等に利用を呼びかけるとともに、砂の代用品として説明呼びかけを実施
	42	家電リサイクルに関する普及啓発	鹿角市 小坂町	家電リサイクル法に基づく処理の普及啓発	H23～H27	冊子を作成し地域全戸に配布、周知するとともに、拠点回収を実施

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
	43	不法投棄対策	鹿角市 小坂町	関係各位の連携及びパトロールの強化を図る	H23～H27	看板設置の実施と不法投棄監視員による常時監視、情報交換及び勉強会を開催
	44	災害時の廃棄物処理体制の整備	県北地区	災害廃棄物処理計画を踏まえた体制整備	H23～H27	災害廃棄物処理計画を踏まえ他市からの災害廃棄物の受け入れを実施 今後も災害廃棄物の一時保管場所についても検討していく

3 目標の達成状況に関する評価

(ごみ処理)

施設整備により、異物混入による不良スラグは無くなり、適正に品質管理された溶融スラグは全量有効利用され、循環型社会の形成に貢献できたと考える。今後も、排出量の削減に向けた施策を推進するとともに、リサイクル率の向上に努める。

(1) 排出量

目標値 14,175t (平成 21 年度比 -15.9 %) に対し、15,724t (平成 21 年度比 -6.7 %) に留まり、目標を達成することができなかった。

(2) 再生利用量

①直接資源化量

目標値 1,762t (総排出量比 12.4 %) に対し、1,378t (総排出量比 8.8 %) であり、目標を達成できなかった。

②総資源化量

目標値 3,311t (総排出量比 23.0 %) に対し、2,944t (総排出量比 18.7 %) であり、目標を達成できなかった。

(3) 減量化量

目標値 9,892t (総排出量比 69.8 %) に対し、11,355t (総排出量比 72.2 %) であり、目標を達成できなかった。

(4) 最終処分量

目標値 1,092t (総排出量比 7.7 %) に対し、1,349t (総排出量比 8.6 %) であり、目標を達成できなかった。

(都道府県知事の所見)

排出量については、事業系ごみ及び生活系ごみの総排出量は減少傾向にあるものの、1事業所辺りの排出量及び1人当たりの排出量は平成21年度より増加しており、目標を達成していない。事業者や住民に対する排出抑制の更なる普及啓発等により、排出量削減に努めていただきたい。

再生利用量については、直接資源化量、総資源化量及び排出量に対する割合のいずれも平成21年度より減少しており、目標を達成していない。事業者や住民に対する分別徹底の更なる普及啓発等、再生利用量の増加につながる取組に努めていただきたい。

減量化量については、中間処理による減量化量は平成21年度より減少したものの、排出量に対する割合は増加しており、目標を達成していない。

最終処分量については、埋立最終処分量及び排出量に対する割合のいずれも平成21年度より減少しているものの、目標の達成には至っていない。排出量削減及び再生利用量増加の取組により、最終処分量の削減が期待される。

様式第 10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
鹿角地域	鹿角市、小坂町	23年4月1日～28年3月31日	5ヶ年

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成21年度)	目 標 (平成28年度) A	実 績 (平成28年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量	6,061t	4,796t	5,879t	122.6%
	1事業所当たりの排出量	1.98t	1.73t	2.051t	118.5%
	生活系 総排出量	10,795t	9,379t	9,845t	105.0%
	1人当たりの排出量	217kg/人	202kg/人	234kg/人	115.8%
合 計 事業系生活系総排出量合計	16,856t	14,175t	15,724t	110.9%	
再生利用量	直接資源化量	1,752t	1,762t	1,378t	78.2%
	総資源化量	3,490t	3,311t	2,944t	88.9%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh	
減量化量	中間処理による減量化量	11,891t	9,892t	11,355t	114.8%
最終処分量	埋立最終処分量	1,532t	1,092t	1,349t	123.5%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成 年度)	目 標 (平成 年度) A	実 績 (平成 年度) B	実績B /目標A
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

【ごみ処理】

(1) 排出量

①事業系 総排出量

総排出量は減少しているが、1事業所当たりの排出量が減少していないことから、事業所数の減少に伴う排出量の減であると思われる。

1事業所当たりの排出量が減少していない理由としては、分別及び適正排出の徹底がなされていないことが挙げられる。観光地であるためイベント等により県外からの持込みごみも増加の要因となっている。また平成26年度から国の事業として「多目的機能支払交付金事業」が始まったことで、農地法面や水路の草刈などで、草や木の搬入が極端に増えたことが要因と考えられる。

②生活系 総排出量

総排出量は減少しているが、1人当たりの排出量が減少していないことから人口減少に伴う排出量の減であると推測される。1人当たりの排出量が減少していない理由は、人口は減少しているが世帯数はそれほど減少していない為、1人当たりの排出が相対的に増加してきていると考える。

可燃ごみに家庭用菜園資材や草の混入が増加傾向にある、またペットボトルや古紙などの資源物が混在しているなど、分別の徹底が不十分なことが要因と考えられる。

(2) 再生利用量

①直接資源化量

地域内民間業者（スーパー）による資源物の店舗回収の拡大により直接資源化量が減少していることが要因と考えられる。

②総資源化量

集団回収量が8tと、目標の200tに届かなかったのが要因である。これは平成25年度に、PEDの流行により生ごみの資源回収が終了したためである。

(3) 減量化量

ペットボトルや古紙などの資源物が混在しているなど、分別の徹底が不十分なことが要因と考えられる。

(4) 最終処分量

分別の徹底が不十分な為、可燃性のごみ及び資源化物が混在していることなどが要因と考えられる。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 平成 35年度まで

【ごみ処理】

(1) 排出量

①事業系 総排出量

1 事業所当たりの排出量の減少のため、分別の徹底及び適正排出の指導をしていく。

②生活系 総排出量

1 人当たりの排出量の減少のため、広報・チラシ等で圏域民に3Rの徹底を周知し、資源化及び減量化を推進する。またマイバック運動を実施するとともに、ごみの有料化を引き続き検討していく。

(2) 再生利用量

古紙類やペットボトルが可燃ごみに混入している状況であるため、広報・チラシ等で更なる分別の徹底が図られるよう圏域民に啓発を行い、総資源化量の増加に努める。なお集団回収量については目標を10tに変更する。

(3) 減量化量

(1)によりごみ排出量を抑制するとともに、既往の資源化に係る啓発を一層推進する。

(4) 最終処分量

中間処理により再分別し、最終処分量の減量化を図る。

(都道府県知事の所見)

排出量、再生利用量、減量化量及び最終処分量については、分別及び適正排出の徹底が不十分であることや、平成26年度から開始された国の新規事業による排出量の増加、平成25年度に生ごみの資源回収を終了したことによる資源化量の減少の影響等があり、目標未達成となっている。

事業者や住民に対する発生抑制・分別徹底の普及啓発や中間処理による再分別等の、改善計画書に記載された取組により、できるだけ速やかに目標を達成するよう努めていただきたい。